

親しく正しく和らぐ

当山先々代三吉日照上人の提唱による
当山スローガンです
揮毫=大本山本興寺御開士大平日晋上人

寺楽寿

No.42

令和2年9月1日発行



本覺山 妙壽寺 (法華宗(本門流))
〒157-0061 東京都世田谷区北烏山 5-15-1
電話 03-3308-1251 FAX.03-3308-7427
ホームページ <http://myojuji.or.jp>



季刊『寺楽寿』は東京都世田谷区北烏山の法華宗(本門流)本覺山妙壽寺が発行する寺報です。
檀信徒の皆さまをはじめ、妙壽寺にご縁のある皆さまに
広くお読みいただければ幸いです。

リレーコラム No.2

連載「無縁社会と寺縁」は前号をもちまして終了しました。今号より当山弟子と職員による「リレーコラム」をお送りします。

お盆の棚経

今年も7月1日から15日まで、多くのお檀家の御自宅へお盆の棚経へ、住職を含め9名の僧侶でご回向させて頂きました。コロナ禍にあつてお檀家の皆様には温かく僧侶をお迎えくださいと、誠に有難う御座いました。年に一度、皆様と一緒に先祖さまのご回向が出来ますこと、大切な絆であると確信しております。

お盆は、私達にもっとも親しみやすい仏教行事の一つです。お盆のことを盂蘭盆(うらぼん)といい、正しくは梵語で「ウランパーナ」と訳し、故人の方々が「倒懸(たかひげん)」さかさまになる苦ししみという意味があり、このような苦しみを取りのぞく供養がお盆ということになります。棚経の棚は、盆棚、精霊棚の棚からきています。そこにご先祖さまをお迎えし、お経を読むことで祖先の霊を家族皆で敬うことが大事だと思います。

お盆の起源は、お釈迦さまの弟子目連尊者が、餓鬼道に落ちて苦しむ母親を救おうとして、お釈迦さまの教えに従い7月15日に百味の飲食を盆に盛り、修行を終えた僧たちに供養したところ、その僧たちの大きな功德によって母親を救うことができたという説話(目連救母)に基づいたものです。この故事によって、7月15日の盆供養は現在の父母のみならず、後七代の父母をも救うと考えられています。

8月の旧盆にも東京近郊のお檀家へご回向に出向きました。これからもこの棚経を通じてお檀家皆との接点を深め、正しい信仰の道へ一緒に進めればと存じます。

(当住徒弟 園田顕敦)



玉蟲と蓮の花

7月19日、当山職員の西澤國光が境内で捕獲した玉蟲。境内にはこの他に多くの昆虫類が生息しています。玉蟲厨子(たまむしのずし)は、奈良市法隆寺が所蔵する飛鳥時代(7世紀)の仏教工芸品で、教科書にも載っています。装飾に玉蟲の羽を使用していることから名づけられ、国宝に指定されています。尚、「厨子」とは、仏像などの礼拝対象を納めて屋内に安置する、屋根付きの工作物です。



今だから日蓮聖人〈その2〉

日蓮聖人の教えの特徴は、「あの世」ではなく「この世」にあることは前号で触れましたが、そのことについて、「立正安国論」諷刺の背景から、今少し考えてみたいと思います。

正嘉元年(1257)に鎌倉を襲った大地震は、崖崩れや家屋の倒壊など甚大な被害を齎しました。翌年には、真冬のような冷夏や暴風雨が各地を襲い、こうした度重なる災害や大飢饉、疫病の流行により多くの人が亡くなりました。牛馬はいたる所に斃れ、路傍には骸骨が山積された地獄のような在り様に、人々は死後の幸福に救いを求める教えに傾倒し、それまでの仏教が極端に軽視されていました。

こうした民衆の苦悩を目の当たりにされた日蓮聖人は、民衆を救う道を求めて多くの經典を精読され、人々が「実乗の一善(仏の道を行く真実の乗り物、唯一の善い教え(法華経))」に帰することこそが、この世の苦しみから民衆を救う唯一の道であることを確信され、「立正安国論」を著し、数多の迫害を受けながらも生涯を法華経の弘通に捧げられたのです。

このように、日蓮聖人の御心は、「民衆を苦しみや悲しみから救わんとする慈悲の心」がその根本でありましょう。

近年、地球規模の気候変動に起因し頻発する風水害、放射能汚染や新型コロナウイルスという目に見えないものへの恐怖、どれも避けがたい現実ではありますが、日蓮聖人が示された理念、教えを我々が正しく理解し行動することによって、こうした現実を少しでも良い方向に導くことができるものと思います。

政治や社会の在り方を批判することは容易なことかもしれませんが、まずは、一人ひとりが自らの在り様を顧みて、自他ともにより良き方向に向かうべく、襟を正す時が来ていると強く思うところであります。

寺日記

8月12日
て遷化されました。葬儀は同月29日に厳修されました。(次号詳報)
本唱寺開基三浦日脩上人遷化
大阪池田市本唱寺開基三浦日脩上人(本國土院日脩上人・元興学林長・元教習部長・宗門史編纂委員長)が法壽84歳にて遷化されました。同月16日通夜式に当住上人参列焼香いたしました。

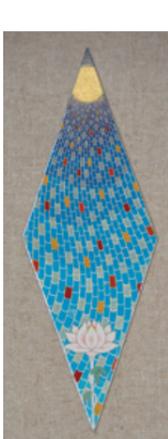
5月20日
東京ブレイククラブ新旧役員引継ぎ会 於 広尾祥雲寺
5月25日
全仏理事会(オンライン会議)
5月9日
本多家葬儀
当山世話人本多保幸氏尊父和彦氏(静壽院法松日和居士)は5月9日、享年99才にて逝去されました。通夜葬儀は11、12日、当山本堂にて営まれました。ご冥福をお祈りいたします。

6月2日
お盆棚経会
棚経期間中、訪問する僧侶9名による打ち合わせが行われました。
6月10日
全仏理事会(オンライン会議)
当住上人全仏理事より監事へ
6月15日
中村美希展
高島屋日本橋の中村美希展を、当住上人が鑑賞されました。当展は本年1月22日〜6月16日まで各地で開催しましたが、新型コロナウイルスの影響により、一部日程変更や高島屋横浜展は中止となりました。(写真「蓮の花」)

8月15日
終戦法要 大坪顕孝師奉修
7月23日
鵠沼・晴明庵
7月23日 孟蘭盆会法要お施餓鬼
梅雨曇の中、午前11時より宗務院書記・渡部憲亮上人の法話に続き、午後1時から20余名の参拝により孟蘭盆会法要・唱題行が修行されました。
8月20日に予定の恒例伊豆伊東海施餓鬼法要は中止となりました。

7月1日〜15日 棚経
7月16日 孟蘭盆会法要お施餓鬼
午前11時、新盆法要、午後2時から孟蘭盆お施餓鬼法要に150余名の檀信徒がご参拝・ご焼香をいただきました。

8月7日 立正院矢吹泰英上人遷化
福島市立正院二世・矢吹泰英上人(照隆院日意上人) 法壽95歳に



正隆会秋のウォーク 中止のご案内

10月10日に予定されておりました恒例の「正隆会 秋のウォーク」は中止いたします。

法要のご案内 (別紙参照)

新型コロナウイルス感染の拡大防止策を寺内に施した上、奉修いたします。

秋季彼岸会中日法要

9月22日(火・祝)
初座:午前11時 第二座:午後2時

宗祖第七三九遠御忌御会式

11月3日(火・祝)
午後2時

宗務院 DIARY	
5/11 監査に同席	5/17 議員運営委員会
5/18 久野部長、平田部長との三者協議	5/18-19 宗会
5/25-26 所長会	
5/13*,29 内局会議	*富山市信行寺(二瓶宗務総長ご自坊)開催のため、当住上人オンラインで参加
6/12,25,26	
5/29,6/25 責任役員会議	

一之輔落語 × 竹灯籠能「石橋」

令和2年11月7日(土)
於 妙壽寺本堂
開演 13:30(開場13時)

一ノ輔独演会 春風亭一之輔
竹灯籠能「石橋」 浅見慈一

*詳細およびチケットお申し込みは、ホームページ(上記右上のQRコード)でご確認ください。また、当山は、新型コロナウイルス感染予防対策を行っております。ご来山の皆さまは併せて注意事項をご覧ください。

猿江別院御写経会

次の日程で、すべて午後1時より午後7時まで開催。

第17回 10月2日(金)
第18回 12月4日(金)
第19回 1月14日(木)
第20回 4月8日(木)

参加費:500円(御写経手本・半紙・美味しいもの)
*御写経手本・半紙・書道用具等はご用意しております。

ご寄進のお願い

檀信徒の皆さまのご協力を!

◆妙壽寺客殿保存会
「妙壽寺客殿」は、平成20年に世田谷区指定有形文化財に指定されました。区とともに次代に継承していくためには、客殿を使い続け、適切な維持管理が必要です。
一口10,000円、ご寄付は何口でもお受け付けいたします。

◆当山 外塙修復
7月16日のお盆法要に間に合うよう、寺町通り側駐車場と第2駐車場の間、約35メートルの笠石と一段目の大谷石を撤去し、新たに軽量アルミを設置しました。これは地震時の塙の倒壊の対応ですが、ご賛同いただけましたら、ご志納(金額はご自由です)をお願いいたします。

◆僧侶衣帯
当山弟子職員の夏の衣帯、所持の仏具などのご寄進のお志をいただければ幸いです。

正隆会 月例講 ご案内

[SHORYU-kai]
午後2時開催

9月12日 勉強会「日蓮紀行」拝読 7
10月10日 勉強会「日蓮紀行」拝読 8
11月21日 勉強会「日蓮紀行」拝読 9
12月12日 三千遍唱題会・勉強会「日蓮紀行」拝読 10
1月9日 初題目・勉強会「日蓮紀行」拝読 11
2月3日 節分会追儺式(豆まき)
3月13日 勉強会「日蓮紀行」拝読 12

猿江別院御写経会

次の日程で、すべて午後1時より午後7時まで開催。

第17回 10月2日(金)
第18回 12月4日(金)
第19回 1月14日(木)
第20回 4月8日(木)

参加費:500円(御写経手本・半紙・美味しいもの)
*御写経手本・半紙・書道用具等はご用意しております。

お布施とは

お布施には、3つの布施があり三施といわれます。

一、法施とは、お経を読み、教えを弘めること。
二、身施とは、身で施す。寺院・僧侶の役に立つ。
三、財施とは、金銭や衣服食料などの財を施すこと。

◆お布施とは
お布施には、3つの布施があり三施といわれます。

一、法施とは、お経を読み、教えを弘めること。
二、身施とは、身で施す。寺院・僧侶の役に立つ。
三、財施とは、金銭や衣服食料などの財を施すこと。



宗祖聖誕 800年記念・本堂落慶35周年記念インタビュー



川島正次郎先生の在りし日の想い出〈上〉

川島 一雄氏 (公益社団法人中村積善会評議員)

聞き手 三吉廣明上人 6月2日(火) 於・妙壽寺(東祥苑・持仏の間)



川島一雄氏

住職 川島様、本日はお忙しいところ当山にお越しいただきまして、ありがとうございます。先般もご挨拶にお見えになられ本堂に恐縮しております。今日は川島正次郎先生のお話をお聞かせ願えればと思っております。私も子供の頃から川島先生のことはいろいろな形で伺ってまいりましたが、本来ならば今年が東京オリンピックの年。NHKではそれを盛り上げようというところで、昨年に大河ドラマ「だてん」で東京オリンピック誘致の物語を放映しました。その中で浅野忠信さんが演じる川島先生が登壇して話題になりました。そこで、改めて川島先生のお話をお伺いするのがタイムリかと思ひ、身近であられた一雄様にインタビューをお願いした次第です。今、私たちよりちょっと上の世代ぐらゐまでは、当時のオリンピック大臣だった川島先生を知っています。今の若い方たちは多分知らないと思います。名言「政界一寸先は闇」は有名ですが、最初に言ったのはたしか川島先生でした。

東京市長・後藤新平との出会い



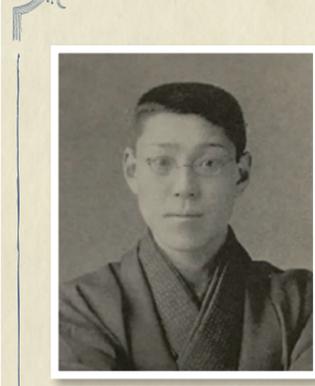
三吉廣明上人

住職 各界から寄せられた川島先生との想い出を綴った追想集「川島正次郎」を読んでもすばらしいと思ひました。特に最後の部分で、編集委員の方々が先生の業績をかなり詳細に書いておられます。その中で、関東大震災前後の東京の復興などで絶対を外せないのが東京市長・後藤新平さんと川島先生は、実は深いご縁があったことが記されています。後藤さんが何週間かのアメリカの視察に行くというときに、川島先生が私も行きたいと直訴したと。君は若いからそんなことにつ

いてくるのではなく、君は君で長く行ってこいということ、その後には後藤さんの支援を受けて渡米されたとのこと。このように、後藤さんにかわいがられたというのはいささか驚きだ。先々代日照上人とアメリカとの往復書簡のやりとりをしたと「追想 三吉日照上人」(473頁参照)にあります。当時大正8年、日蓮主義といまして、日蓮聖人の教えに基づき、国をよくしていこうということについて論じている田中智学(日蓮宗系の在家仏教運動者)等がおられました。川島先生は、そのことも触れ、川島先生について書いている。非常に時代背景が出ています。28歳と29歳の、熱い友情ですね。川島先生の追想集にはいろいろな方が思い出を語ってありますが、先生が大変な歴史を背負われて徐々に政界の重鎮になる過程で、後藤新平さんとの関係を知り、私は非常に感動しております。最近、伊東深水先生の業績を調べていますが、平成29年に猿江別院が建立完成した際に、川島正次郎・内田祥三・伊東深水のお三方を日照上人のご友人としてピックアップさせていただきました。そのときに本堂にありがたくも、川島家からは、後年名誉会長を務める江戸消防記念会のミニチュア版「纏」をお寺にご寄進いただいた、ずっと展示してあります。そのお三方を挙げた中で、私も宗派の事務局の芹澤寛隆師に調べてもらったところ、東大の建築構造学者で震災後の東京復興の都市計画を主導した佐野利器教授の弟子が妙壽寺檀家の内田祥三先生だと。多分内田先生と後藤新平さんともつながりがあり、日照上人がその知り合いです。そうすると、深川から鳥山へ越してくるときに、今の世田谷区の文化財になった鍋島客殿が麻布狸穴から移築する際に、内田祥三先生、後藤新平さん、川島先生がおられるということで、そういう人間関係の中で鍋島客殿を妙壽寺が譲

り受けたのではないかと考えられるので。鍋島家の客殿は4棟建っており、最近分かったのは、そのうちの3つは文京区音羽の真言宗豊山派護国寺さんに移築されたそうです。廻ると川島先生、内田先生、そこに後藤新平さんがおられる。震災後の復興事業も関連している。後藤さんは、その頃は東京市の市長に就いていたそうです。川島 私も小さかったとき聞いています。後藤さんは請われて市長に抜擢されたと同っています。それで、まだいろいろあるんですけども、それは何かというのと、権名悦三郎(元衆議院議員・通産大臣・外務大臣等を歴任)さんという方がおられます。住職 私どもが知っているのは、三木武

夫首相が誕生するときの権名裁定が有名です。川島 はい。それで、私も川島の後の副総裁を、同じ派閥の中で佐藤総理が権名先生を選んで、その後ずっと三木派との関係が続きますが、その権名さんは後藤新平さんの縁続きなんです。政界の重鎮へ 住職 追想集を読んでいて、すばらしいなと思いつつ、ちょっと勉強不足で存じ上げなかったのは、岸内閣のときに幹事長をされ、その岸先生の川島先生に対する評価が高く、私はその岸先生の文章は、すごい名文だなと思ひました。名前を出してしまいますが、金丸信先



夢多き大学時代 (専修大学卒業アルバムより) 大正3年3月



後藤新平男爵から寄せられる



直筆色紙「質実剛健」



昭和天皇・皇后両陛下ご臨席の第10回国民体育大会(神奈川県)に臨む(昭和30年)



東京オリンピック担当として施設を視察(昭和38年7月)



箱根・奈良屋の庭で岸信介夫妻と談笑(昭和38年8月)



ジャカルタで開催のアジア・アフリカ会議(AA会議)10周年記念式典に特使として出席。周恩来首相、スカルノ大統領と談話(昭和40年4月)

生は「足して2で割る政治」と言っていました。川島 はい。川島先生もそういうふうに見られがちだけれども、川島先生の場合はそこに一本筋が通っている。周りから見ると足して2で割るように見えるけれども、筋がぶれないから後で大変高い評価を受ける政治手法なのだ」と書いています。私は、本当に岸先生もすごい方だと思ひました。今の安倍首相のおじい様ですか。今廃業しましたが、箱根の旅館「奈良屋」は川島先生が常宿にされていましたが、一雄様からいろいろのご遺品の説明を受けました。奈良屋さんは当時岸内閣の、ある種、政治の舞台であり、そこで内閣が組閣されたりしたとおっしゃっていました。川島 はい。今度いいますと内閣改造というのでしょうか。内閣ができるに当たっては、ほとんどは総理官邸の中ですね。それで、総理官邸の前に報道のテント村というのできて、記者たちに何々大臣はこうだという情報が流れて、それを全国に配信していたのですが、岸内閣のときに一度だけ、過去にもないことですが、内閣改造を官邸の外でやったことがある、その場所が箱根の奈良屋だったんです。岸先生も非常に奈良屋が気に入っていました。住職 自由民主党の結成と55年体制の確立のときですが、川島先生は表には出ないけれども陰で大変尽力をされた。いわゆる中選挙区制という中で中間派閥としての川島派を率いられた。川島派には、生家が富山県砺波で代々官司を務めておりご自身も神職である綿貫輔先生、よど号事件の「男・山村新治郎」の山村先生がおられました。川島 山村先生は、旧家の先代が亡くなり名前と共に跡を継がれるということ、私どもも選挙には絶対落としてはいけないとかなり力を入れました。住職 権名悦三郎先生、赤城宗徳先生もそうです。川島 赤城先生も権名先生も戦前から一緒でした。ですから、そういう流れで自分たちの派閥を組まれたということですね。それで、あの「バカヤロー解散」というのは吉田茂さん、「灰皿事件」は、灰皿を会議中か何かに投げたという。それは篠田弘作先生。北海道出身で、前職は新聞記者だったのですが、ずっと選挙には強く、その先生も一緒なんです。派閥としては20人前後がいいんだということはおっしゃっていました。それでいて内閣改造のときは大臣ポストを必ず2つは取ってこられる。後から思うんですが、すごいことなんでしょう。ほかの大きな派閥は、本当に欲しいが手もなかなか手に入らない。どうしようもない。閣僚ポストかどうかは別にしても、ちゃんと必ず2人は入っている。それも重要ポストに、閣僚に入っ

いるわけですよ。そうすると、都合3つあるわけです。それで、幹事長を務めた頃には、赤城先生を自民党の別のポストに置いたり、権名先生と一緒に入れたり、常にそういうことだけは気を遣っておられたのだからと思います。また、実父の柳原謙次郎の故郷は長野県下伊那郡清内路村(現在は合併して阿智村)ですが、そこには「川島公園」があります。国道256号の生みの親である川島先生を敬慕する人たちが奉賛会を結成して、三回忌を迎えた昭和47年に公園と胸像を建立しています。教育者、文化人として 住職 先生はちやきちやきの江戸っ子気質で、非常に好男子。少年時代は歌舞伎役者になりたいという話もあり、当時の芸者衆にもかわいがられたことでした。その後には日照上人とは早逝した奥様(幸夫人)を介してのご縁で知り合われたと。政界での活躍では、千葉県政界の重鎮であられ、葬儀の折には先代の団十郎さんや、成田山新勝寺のご貫首がご挨拶に見えたり、やはり選挙区を大事にされていたのです。川島 そうです。よく人のついでにお話があるのは、専修大学は総長、千葉工業大学は理事長を務められ、その2つの大学を何かとお世話していました。関係者は、専修大学出身のことだからと言いますが、ご本人はあくまでも政治家だ。立場はどうであろうと自分の基は自民党の代議士だという考えです。住職 私、記憶の片隅にあるのですが、今の日本航空の設立、あるいは成田空港の建設の誘致というのは、やはり先生も関連されていたことですか。川島 はい、手伝ってはいたいと思ひます。成田の飛行場は、これはもう当時場所を選定するのが大変だったようです。成田にしようか、それとも東京湾の先を埋め立ててとか。けれども、それについては表立って自分がどうということはない。たと思ひますが、やはりそれなりのアドバイスというんでしょうか、相談は受けていたようですね。住職 お小さい頃から文化的なことにはいろいろ関連されている中で、歌舞伎に詳しくあったとかいうお話も伺っています。あとは消防の火消し。そういう文化的なことはほかに何かございますか。川島 あとは、日本武道館が創建されたときに初代館長を務めました。日本の武道を育てる、また、若い人たちの鍛練の場であるということ、引き受けられたのだと思ひます。先生はいろいろの面々でできる限りお手伝いをしたいというお気持ちがあり、頼まれると嫌と言えない性格なのかもしれません。(次号へつづく)